

異なる金属原子から数ナノ(ナノは10億分の1)の粒子レベルで均一な合金を量産する技術を開発したと、京都大や金属加工メーカー「フルヤ金属」(東京都)のグループがこのほど発表した。この技術を応用すれば、さまざまな金属の合金を安定的に作れることが期待できるという。

京大理学研究所の北川宏教授らは既にレアメタルのロジウムとほぼ同じ性質の合金を、2種類の金属原子から作製することに成功している。

## ナノ粒子レベル 均一な合金量産

しかし液状の「還元剤」に金属イオンを吹き付け合金を作る従来の手法では、均一な品質で大量生産することができなかった。

グループは400度、30

作することに成功した。鉄と白金など、さまざまな組み合わせで合金を作ることでもできた。この手法を応用すれば、3種類以上の金属元素を組み合わせて合金を作れるとい

### 京大などグループ 技術開発

0気圧などの高温高圧下で金属イオンと還元剤を反応させ順次、管の中を流していく装置を開発。直径1ナノメートルの大きさの粒子が均一に含まれたロジウムに似た合金を、大量に

う。北川教授は「この技術で多様な合金を作れ、自動車の排出ガス浄化や工場における二酸化炭素削減の手法を開発することにも貢献できる」と話す。

(広瀬一隆)